

A 氏邸訪問記(2015.8.30)

1. はじめに

前回伺ったのは今年の5月で micro iDSD を持参し、A 氏邸のシステムで DSD 再生がどのように鳴るかを聴かせていただきました。その後 TASCAM の Hi-Res Editor を使うようになり、11.2MHzDSD 音源を 5.6MHz に変換しながら MYTEK DIGITAL192-DSD で聴いておられるということでした。今回も micro iDSD とリベラメンテシリーズのケーブルを持参して 11.2MHzDSD の Native 再生と比較してみようということになりました。また、同行の M 氏、O 氏ご持参の CD の銘盤を聴かせていただくのも今回の訪問の目的でした。

2. 試聴の経過

A 氏邸のスピーカーは、QUAD、Tannoy Arden、KEF の LS3/5a ですが、今回は QUAD の調子が悪いとのことで KEF の LS3/5a を聴かせていただきました。この LS3/5a は低音を増強するために、写真では QUAD の陰にかくれている Tannoy Arden を平行に繋いでおられます。これまでの経緯は[前回の訪問記](#)を参照してください。



当日のセッティング



銘盤の数々

まず、最初は CD がどう鳴るかということで DNON の CD プレイヤーから DENON のプリメインアンプを通すというシンプルな構成で M 氏、O 氏ご持参の CD の銘盤を聴いていきました。

まずは、M 氏ご持参の 1908 年製ブリュートナーで弾かれたピアノ曲から始まり、ついでプレイエルで弾かれたピアノ曲、O 氏ご持参のベーム/ウイーンフィルのブラームス 1 番が順次かけられていきました。M 氏によるとブリュートナーの 4 本目の共鳴弦の音がきちんと聴き取れるということでした。また、ブリュートナーとプレイ

エルの違いもはっきり分かり、近年のスタンウェイにない、それぞれの良さが認識できました。

ここでPC オーディオに繋ぎ替え、HQPlayer と MYTEK DIGITAL192-DSD で CD を 5.6MHzDSD にリアルタイム変換して聴いていくことにしました。1887年のニューヨークスタンウェイと1912年のニューヨークスタンウェイの比較、リヒテルのニューヨークスタンウェイなど、時代もののニューヨークスタンウェイの良さが満喫できました。

ここで、いくつかの 11.2MHz DSD 音源を Hi-Res Editor でリアルタイムに 5.6MHz DSD に変換しながら聴いていき、ついで MYTEK DIGITAL192-DSD を micro iDSD に交換し、USB リベラメンテとリベラメンテで結線して 11.2MHzDSD の Native 再生を行っていきますと、やはりリアルタイムに 5.6MHz DSD に変換した場合より、11.2MHzDSD の Native 再生の方が楽器の質感や音場感は格段に向上しました。使用した音源は[音源情報紹介 No.7](#) から [音源情報紹介 No.13](#) までのものでしたが、モーツァルトのピアノ曲やアカペラの音質に好感が寄せられ、ガムランは KEF の LS3/5a と Tannoy Arden の変則的な組み合わせでしたが、超高域から重低音までの帯域が十分カバーされているという印象でした。プロサウンドの付録の Jazz 音源では、11.2MHz DSD のメリットは良く分かるが、PCM のハイレゾに旗を挙げる向きもあるかもしれないという声がありました。ここまで出るのは、やはり micro iDSD に使用した、USB リベラメンテとリベラメンテの助けも大きいのではないかという指摘もありました。

この後、先にかけてられたプレイエルを 11.2MHz へのリアルタイム変換で聴き直し、さらに DENON のアンプの電源ケーブルをパワーリベラメンテに交換しますと、一層 CD を DSD 変換して聴くというメリットが生きてきました。この条件で、ベーム／ウイーンフィルを聴き直し、NY スタンウェイも聴きましたところ、最初の DENON の CD プレイヤーの音から様変わりしていました。

最後に Diga の BZT-9000 の BS 録画から、ベーゼンドルファー、スタンウェイ、プレイエル、FAZIOLI を使用したライブ演奏を聴きました。BZT-9000 のデジタル出力を CCV-5 にいれ、ここに GPS-777 から 96KHz のクロックを入れて打ち直し、CCV-5 からのデジタル出力をデジタルリベラメンテで micro iDSD に入力するというラインアップです。大画面の画像を楽しみながら、ピアノの機種の違いを確認できました。もう一度 CD をいうことで、BZT-9000 で O 氏のワルキューレを再生しましたが、DENON の CD プレイヤーよりはこちらの方が良いという印象でした。

3. まとめ

QUAD が使えないということで、前回より音のグレードが落ちるのではないかと危

惧していましたが、LS3/5a と Tannoy Arden をパラに鳴らすという手法でカバーできていることが分かりました。また、11.2MHzDSD の Native 再生や CD の銘盤を 11.2MHzDSD にリアルタイム変換再生することにより、銘盤の良さを満喫できました。最近の 11.2MHzDSD 録音の進歩が確認され、再生機器や再生ソフトの進歩で、時代物の楽器による古い録音の名演奏がフレッシュに蘇ることが分かりました。

以上